

戸隠 西岳P5稜

笹川

【日時】 2011年月26日(土)～27日(日)

【メンバー】L小暮、栗原、笹川

戸隠は大好きな山域で登りたいルートはたくさんあるのだが、入門ルートでも他の山域の上級者ルートの難易度なので、なかなか足が向かずにいた。

P1尾根、西窟尾根に続く入門ルートのP5稜に行くことにしたが、過去の記録では一度で行けたものはなく、我々も敗退覚悟で臨んだ。

■2/26 晴れ

この1週間は降雪もなく天気
が安定していたので、少しは
気が楽になったが、やはり戸
隠神社に近づくと緊張感が増
してきた。

品沢高原から林道に入ると、
始めは硬かった雪面がだんだ
んともぐり始めたので、ワカ
ンを履くことにした。

稜線に上がる方法は何パタ
ーンかあるが、今回は雪も安
定しているので一番楽な大沢



PⅦの下まで偵察

からPVを目指すルートを取った。しかし、左俣に入るところを間違えて右俣に入り、無駄な懸垂をして大沢に戻った。

鏡岩壁下の枝沢から稜線に上がり、そこにテントを張ることにしたが、左側が切れ落ちているので嫌らしい。

時間も早いので第一の核心部のPⅦを偵察することにした。PⅥまで念のためランニングコンテで抜け、ロープを外した後もPⅦの下までラッセルしながら進んだ。PⅦの取付きまで行くと戻るのが大変そうなので、急斜面手前までとし、BCまでは大沢を下った。

鏡岩壁の雪が落ち始めているところから水が取れそうだったが、泥混じりなので諦め、今シーズン初めての水作りとなった。

■2/27 晴れ

明るくなり始めると同時に行動開始。今日はPVII手前まではノーザイルで登った。PVIIの取付きでロープを結び始めると太陽が出てきてスノーキャップ岩を赤く染めた。まずは小暮がリード。正面の岩場を左から廻りこんだ後、全く姿が見えなくなり、笛も聞こえなかった。トラバースが続くが手がガバなのでロープがついていればそれ程怖くはない。しかし1箇所雪の塊が邪魔して上を通るのか下に行くかで全員迷走することとなった。

リッジに出るには更に1ピッチトラバースとなる。ガイドには2mの悪いトラバースとあるのでリードを拒んだが、難しくないよと言われトップで行ってみる。ツツジを掴んだ後1段上に上がりたいのだが、張り出したスノーキャップのせいで被り気味になり一歩が出ない。もう1段下から回り込

めば行けるかもしれないが、時間がかかりそうなので、小暮に代わってもらおう。結局、リハビリ中の私にとってはここが一番難しく、スノーバーでお助け紐をつけてゴボウで登った。稜線に戻った所で後ろを振り返るとすごい迫力。

岳樺の緩い斜面を行くと核心部の草付が出てくる。草付をトラバースしてブッシュに移るまでが核心だが、リードの栗原さんのバイルは刺さりにくそうだった。ここでもまた雪の塊が邪魔だったが、今度はバイルを持っていたので塊を削って小さくして通過。私は2本ともアイスバイルなので心強かった。トラバースの後には木登りの力仕事が続く。

ロープを外すと山頂までの綺麗な雪稜になる。このまま山頂に出られるかと思っただ、最後はハングした雪尻をスコップで崩し登った。

山頂に出ると懐かしい景色が広がる。しかし、未踏のルートはどこも厳しそうだ。

山頂から雪尻を降りるのは怖かったので、お助け紐を出してもらい、最後の小暮はバ



1ピッチ目の取付き



PVIIを振り返る

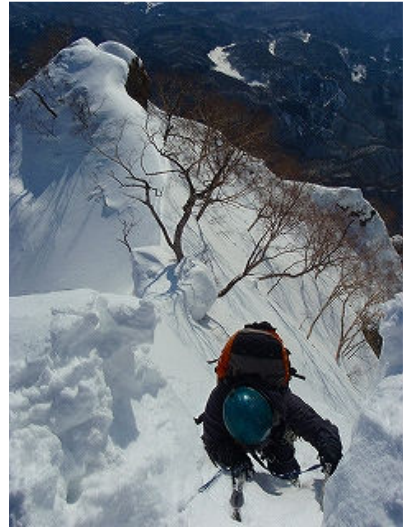
イルにセルフビレイを取りながら下りた。

山頂直下の大木を過ぎた辺りから沢沿いに下れ
そうなので、休憩しながらハンドテストしてみた。
弱層は見られなかったので、BCまで一気に下るこ
とにした。一気に下ると言っても、斜面が急なの
と雪が腐っているのでなかなか進まない。

テントを撤収してデブリで歩きにくくなった大
沢を更に下る。途中、行きで間違えた二俣に到着
すると滝が出ていたが、巻いて下りることができ
た。

林道で一息入れ、品沢高原に到着。麓も暖かく、
ふきのとうを取る人も見かけられた。

今回はお互いが初心者だった頃、苦労して赤岳天
狗尾根に行った事があるメンバーだったので、お
互いの成長を実感！一回目で行けたのは雪が安定
してタイミングが良かったのが大きな理由だけど、
少しは実力がついたのかな。



山頂への一步

【行程】 2/26 品沢高原(9:00)～大沢出合(9:30)～BC(12:00/13:20)～PⅦ手前(14:50)～
BC(15:20)

2/27 BC(5:30)～PⅦ手前(6:25)～P5山頂(10:00/15)～BC(11:00/11:45)～林道
(12:25)～品沢高原(13:00)

【地図】 戸隠



山頂にて